



いやさか通信



大学生と和田野区の連携プロジェクト

5/11 (土)

昨年度から取り組み始めている、追手門学院大学と弥栄町和田野区の連携事業について、地域の「食」をテーマとした今年度1回目の合宿が行われました。たら福で地元住民との食文化交流会を終え、農道、そば畑、ちりめん街道などを散策し、西方寺を訪問した学生は、その後三班に分かれてフィールドワークを行いました。

国営農地、SOJA農園キコリ谷テラス、だいまるしょうゆカフェで、それぞれの事業者の現状や課題、地域との関わりや今後の将来像等についてヒアリングを行いました。

また和田野区が地域内交流を目的に栽培し、収穫したそば粉で作った2種類のガレットを試食し、多様な活用や広報の方法、地域の中でのそば活性化方法についてワークショップを行いました。

学生からは「これからも和田野区について学び、より良い提案や意見を出したい」「田舎の良さについて言葉を通じて感じる事ができ、良い経験を得た」といった声が寄せられました。



そばガレット



高校生と将来について考える

5/23 (木)

京丹後市地域おこし協力隊として野間地域で活動している稲本隊員が、「人との出会いや地域との繋がりの中でビジネスアイデアが生まれる」と題し、久美浜高校で講話を行いました。

自身が地域おこし協力隊になるまでや、軽トラックの荷台に乗せることができる木製モバイルハウスを製作するに至った経緯の話の後に、考え方の幅を広げることを目的に、将来の夢や自分がやりたいことを紙に書き出し、発表するグループワークを行いました。

生徒からは、「将来は京丹後市を発展させられるように、地域に関わることをしたい」「自分のやりたいことを実現させられるように頑張りたい」といった感想が寄せられました。



赤米の歴史をつなぐ

5/26 (日)

芋野区において、古代米である赤米の田植えが芋野郷赤米保存会の主催で行われました。今年度より吉野校区(吉澤区、芋野区、堤区)の取り組みとして地域の皆さんに広く呼びかけ、子供達を含む120人が参加しました。歓声が響く賑やかな田植えの後、3区の女性の皆さんで考案したモチモチとした生地が特徴の「赤米クレープ」や「赤米おにぎり」(無料)をはじめ、消防団の「赤米ラーメン」や「赤米ボン菓子」(無料)など、赤米を使った手作りの料理がふるまわれましたが、あっという間に売り切れ、楽しいイベントとなりました。



弥栄小学校田植え体験

5/30 (木)

鳥取区において、弥栄小学校の5年生21名が総合的な学習の時間の一環として田植えを行いました。コシヒカリを中心にした田植えは毎年行っていますが、今年は更に地域の歴史や特産品等についても学ぶために、芋野郷赤米保存会から苗を頂き、初めて赤米の苗を植えました。秋には実ったコシヒカリや赤米を収穫し、小学校の給食でいただく予定です。苗をまっすぐ植えることに苦戦しながらも、青空の下元氣よく体験しました。

